

【声に出して読む】 俳句 杉田久女 五

旅人の 傘さし行けり 野分あと

たびびとの かささしゆけり のわきあと

露の世や 廃園の木の 影ばかり

つゆのよや はいえんのきの かげばかり

初雪の 紙の如くに 降りにけり

はつゆきの かみのごとくに ふりにけり

涼しさや 紙をはぐ音 人の声

すずしさや かみをはぐおと ひとのこえ

【声に出して読む】 俳句 種田山頭火 一

分け入っても 分け入っても 青い山

わけいっても わけいっても あおいやま

うしろすがたの しぐれてゆくか

うしろすがたの しぐれてゆくか

なんにもならん 日がしづかに しずんでゆく

なんにもならん ひがしづかに しずんでゆく

ひとりきて ひとりたべて 草にねる

ひとりきて ひとりたべて くさにねる

【声に出して読む】 俳句 種田山頭火 二

まつすぐな道で さみしい

まつすぐなみちで さみしい

手を合わせて 木の実を拾う

てをあわせて きのみをひろう

捨てきれない 荷物をせおって いる

すてきれない にもつをせおっている

ぬれて一人 山をもどれば 母がいる

ぬれてひとり やまをもどれば ははがいる

【声に出して読む】 俳句 種田山頭火 三

おちついて 死ねそうな 草萌ゆる

おちついて しねそうなくさもゆる

しぐるるや しんじつ母を 恋ふるごとく

しぐるるや しんじつははを こうるごとく

いつも人の 世が遠くなる 日暮れかな

いつもひとの よがとおくなる ひぐれかな

山をのぼり 山をくだり 草を食う

やまをのぼり やまをくだり くさをくう

【声に出して読む】 俳句 種田山頭火 四

ふるさとは 遠きになりて 思ふもの

ふるさとは とおきになりて おもうもの

吹かれつつ しづかに歩いて いる

ふかれつつ しずかにあるいて いる

何を求めるでもなく 風が吹く

なにをもとめるでもなく かぜがふく

酔いざめて 路ゆく山の 青さかな

よいざめて みちゆくやまの あおさかな

【声に出して読む】 俳句 種田山頭火 五

たつた一人 日のあたる道を 来ている

たったひとり ひのあたるみちを きている

水音の うるさくて泣く

みずおとの うるさくてなく

泣くも一人 笑ふも一人

なくもひとり わらうもひとり

サイダーの 泡立ちて消ゆ 夏の月

さいだーの あわたちてきゆ なつのつき